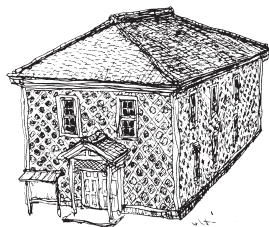


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

長谷山

彰

大学部開設125年を迎えて

今年は大学部開設125年に当たります。1890（明治23）年、福澤諭吉の依頼に応えハーバード大学総長エリオットが送ったリスカム、ドロップパス、ウイグモアを主任教授として文学・理財・法律3科からなる大学部が発足しました。

本格的な高等教育の始まりですが、慶應義塾はそれ以前から文理融合のリベラルアーツ教育を重視してきました。現在でもその伝統は守られ、例えばリーディング大学院プログラムでは広くかつ深い専門性を備えた博士人材育成をめざして5年一貫の文理融合教育を展開しています。

最近文部科学省が文系学部の整理統合の方針を発表しましたが、グローバル化時代にこそ獨創性を養う文理融合の教育が重要です。理工学部の前身である藤原工業大学は昭和14年、塾員で王子製紙の創業者藤原銀次郎が私財を投じて設立し、小泉信三塾長が学長を兼任、初代学部長には東京帝国大学教授・海軍造兵中将谷村豊太郎が就任しました。藤原が「すぐ役に立つ」人材を造れと要求すると、谷村がすぐ役に立つ人間は「すぐ役に

立たなくなる」と応酬した話は有名です。開学式で小泉は、人文科学の発達の伴わない技術学の発達は時として有害でさえあると強調し、学部長就任式で谷村は、大きな建築には大きな基礎工事がいるように、技術家として大成するには人文学を含んだ学習が必要であると述べています。帝国大学が生んだ「官」の人谷村と福澤の膝下で育った「民」の人小泉が教育観を共有していたことは興味深い事実です。

昭和18年、東条内閣は大規模な学徒動員と、理工系学校の拡充、文科系学校の統合縮小を決定しました。それより8年前に再来日したウイグモアは、三田山上で「独立の大学慶應義塾」と題して演説し、福澤諭吉が「政府の掣肘（せいじゆう）から全く自由である学府」として慶應義塾を設立したことを強調しましたが、まもなく国家が義塾にも重くのしかかる時代が到来したのです。その時代において、進んで工業大学を開設しつつ義塾の教育理念を守り抜いた先人の苦闘の歴史に敬意を表し、私たちがその理想を受け継いでゆきたいと思えます。